

# 学校の応援団

# 奈良教弘NEWS

奈良教弘 南大路2-1-1  
株式会社 奈良市  
株主 奈良市

ボランティア・スピリット・アワード受賞者

## 貧困問題についてメッセージ発信

### 育英西高等学校第二学期終業式

教弘ニュース十月号で紹介したボランティア・スピリット・アワードの全国授賞式が昨年十二月十五日(日)に行われ高校生部門ブロンズ賞を受賞した育英西高等学校(北谷成人校長)の奥田心音さんが参加した。その経験も含め、二学期の終業式で全校生に向け発信したメッセージを紹介する。

みなさんこんにちは

私は小学生の頃から貧困問題について取り組んでいます。

これまで地元の中学校へ寄付をお願いし、軽トラ一台分の物資を集めて必要とするところへ届けたり、「おてらおやつクラブ」というお寺のお供え物をおさがりとして貧困家庭へ届ける活動をしているNPO法人に学生代表として関わってきました。夏に皆様のクラスに配られた冊子にも思いを綴っています。なぜ活動を始めようと思ったのか？

きっかけは私の母でした。

私の母は保存食のお店を経営していて、毎年売上の一部と一緒にクリスマスに合わせて段ボールいっぱいの商品をお寺にお供えをしています。

私は母について行き、お寺で箱詰めをしたり、メッセージを書くお手伝いをしていました。

成長するにつれ、母がどんな思いで活動しているのかを知り、ニュースで取り上げられている世界の貧困問題が私のすぐ近くにも存在することに気付きました。私もできることをやりたいと思い、自身の活動を始めました。

昨年はボランティアの活動が認められ、コミュニケーション賞をいただき、今年はブロンズ賞を受賞することができ、先週、東京で行わ

れた全国表彰式に招待され、行ってきました。

全国表彰式では千人ほどの方々がいる大舞台で自分の活動の周知を実現することができました。

全国各地からブロンズ賞を受賞した30人と意見交流をする時間では、海外展開している仲間に出会えたりと繋がりを感じている貴重な時間となり、幸せな気持ちでいっぱいになりました。

私の今後の目標は食で幸せの循環を実現することです。

私の住む街では農業が盛んで、同じように育てられた野菜でも形や色が悪いだけで出荷できずに廃棄される野菜がたくさんあります。

食べ物に困っている人がいる一方でこのような矛盾が起きています。

私はそれらをお料理にし、必要とするところへ届けたいと思っています。

共感してくれる仲間を巻き込んで継続して廃棄をなくすお料理を提供できる仕組みを作ります。

まずはブロンズ賞でいただいた活動支援金を使い、地域食堂の開催に向けて企業様や県議会の方々と支援依頼を進めています。

そこで、これからさらに活動の規模を大きくするために共感してくれる仲間を巻き込んで取り組んでいこうと思っています。

本気で一緒に取り組みたいという方がいましたら、2階パン売り場のところにQRコードを掲示しておりますので、そちらのフォームにご回答くださると幸いです。

沢山の子どもが幸せに平等な選択ができる世の中を作りたいと思っています。

幸せをみんなに分ち合うことで子どもの心に希望の光を灯すことができると信じています。

私はそんな未来を作っていきたいです。ご清聴ありがとうございます。

## 華団による花香活動

御所市立大正中学校(小西満 校長)

令和六年十一月二十九日(金)御所市立大正中学校で「華団による花香活動」が行われた。これはコミュニケーションとしての取組の一環である「地域の方々と一緒に花の苗や球根などを植栽する『華団による花香活動』」により、一年を通じて色とりどりの花を見るのができ、子どもたちの「学ぶ力を見る」という目標を実現するための教育環境を創り上げる活動で、学校・家庭・地域の「つながり」により大切に受け継がれてきたものである。公益財団法人日本教育公務員弘済会奈良支部から寄贈されたチューリップの球根などが植えられた。地域の清掃活動と併せ校内で美化活動などを行うCL委員を中心に生徒・教職員・PTA・地域の方々など約50人が参加した。

また、御所市「教育等包括連携協定」を活用した「つながり」により、奈良県立御所実業高等学校(石井正幸校長)から先生と生徒が指導し、御所市原産の「御所柿(ごしょがき)」の植樹を初めて行った。

奈良県立奈良南高等学校吉野学舎(磯田喜義校長)の生徒がレジャー加工で説明文を彫り込んだ木製プレートを設置した。

小西校長は、「これからも、子どもたちのために『つながる』学校を目指して取組を進めたい。」と述べられていた。



植樹された御所柿(ごしょがき)

(村田貴)

\*公益財団法人日本教育公務員弘済会の教育振興事業(奨学金事業・教育助成金事業・教育文化事業)及び福祉事業は、教弘保険の契約者配当金により運営されており、日本教育界に貢献しています。

# 小・中・高校生の未来を考える集会

令和七年一月二十五日(土)奈良県立教育研究所において、「第26回小・中・高校生の未来を考える集会」が開催された。これは、小学校、中学校及び高等学校等の生徒指導研究(協議)会で構成する奈良県小・中・高校生徒指導連絡会(奈良県立奈良商工高等学校長・長谷川智会長)が、校種を越えて連携し、保護者や奈良県警察等の関係機関と共に、児童生徒の健全育成を目指した集会である。

今年度のテーマは「いのちを輝かそうくともだちについて考えよう」と、標語とポスター原画を県内の小・中・高等学校等及び特別支援学校に在籍する児童生徒徒から募集し標語、ポスター原画併せて四五三点の作品が応募された。入選者は、集会のなかで小谷隆男奈良県教育委員会教育次長より表彰された。公益財団法人日本教育公務員弘済会奈良支部・国際ソロプチミスト奈良―平城の協力により、最優秀賞に選ばれた標語とポスター原画を組み合わせてポスターを作成し、県内の小・中・高等学校等及び特別支援学校、関係機関等に掲示される。

講演会では、奈良県香芝市出身で奈良県立大宇陀高等学校(現奈良県立宇陀高等学校大宇陀学舎)の卒業生である落語家の笑福亭鉄瓶さんが「師弟関係から学ぶ愛 落語から得る人情」と題し、講演を行った。



啓発ポスター (村田貴)

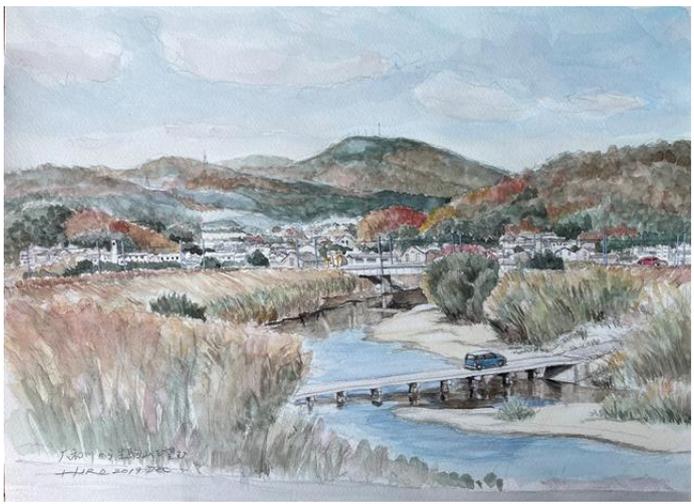


## \*標語、ポスター原画の入賞者の皆さん

ポスター原画の部			
最優秀賞	奈良県立高円芸術高等学校	1年	市場 瑛琉
優秀賞	奈良市立六条小学校	2年	藤平 優蘭
	奈良市立平城中学校	2年	林 咲羽
	奈良県立大和広陵高等学校	1年	山本 涼生
入選	橿原市立耳成小学校	6年	中井 心春
	奈良市立六条小学校	3年	太田黒 夢華
	奈良市立二名中学校	1年	坂 千夏
	大和高田市立高田中学校	1年	土橋 若奈
	奈良県立高円芸術高等学校	1年	藤井 愛莉
佳作	奈良県立五條高等学校	2年	森 好花
	奈良市立六条小学校	6年	吉田 彩希
	王寺町立王寺北義務教育学校	3年	田中 希実
	大和高田市立高田中学校	2年	小西 萌来
	奈良市立二名中学校	1年	松田 千尋
	奈良県立高円芸術高等学校	1年	秋 陽奈乃
奈良県立商業高等学校	1年	久保 心愛	

標語の部			
最優秀賞	奈良市立富雄第三小中学校	7年	長田 さくら
優秀賞	奈良市立六条小学校	6年	佐々木 虎太郎
	奈良市立富雄南中学校	2年	甕 一騎
	奈良県立西和清陵高等学校	1年	堀内 由希
入選	橿原市立鴨公小学校	6年	北原 瑠
	平群町立平群小学校	6年	島田 瑚々音
	奈良市立月ヶ瀬小中学校	8年	相和 佑奈
	奈良市立月ヶ瀬小中学校	9年	松本 実咲
	奈良県立西和清陵高等学校	1年	松本 祐夏
	奈良県立商業高等学校	1年	浦岡 大修
佳作	平群町立平群小学校	6年	春名 楓彼
	平群町立平群小学校	6年	小谷 湊
	奈良県立青翔中学校	2年	池田 瑛太
	桜井市立大三輪中学校	1年	榮嶋 優美
	奈良県立五條高等学校	1年	窪田 愛未
	奈良県立大和広陵高等学校	1年	中垣 脩哉

## 奈良百景



大和川から見える生駒山です。奈良から大阪湾へ流れる大きな川です。かつて中国、朝鮮半島から邪馬台国への海上交通の大動脈として、様々な物や技術が伝えられました。大阪湾から鍵唐古(田原本町)、纏向(桜井市)まで続く川沿いには、古くからの地名が遺されています。手前の沈下橋は、小型車がギリギリの狭い橋ですが、しっかり機能しています。

(大山浩史)

## 編集後記

令和七年元日、日課であるウォーキングの途中で素晴らしい日の出に出会い思わずシャッターを押してしまった。能登半島地震からちょうど一年被災された方がニュースのインタビューで「平凡でもよいから平穏な日々的一年でありませう」というコメントが印象的であった。人は災害や危機的状況に遭遇すると「当たり前」の日常や平穏な日々を欲するのだですね。



私は、奈良教弘創立の理念である教育に携わる仲間「たすけあい」の輪が広がり、明日を担うこどもたちの健やかな成長とそのため尽力されている教職員の皆様の活躍を初日の出に祈った。

(村田 貴)